

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	千葉 信幸	内線 8410
小施策	20-2	環境を大切にしている心の育成	評価 シート 作成者	菅原 真理	内線 8411

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民一人ひとりの節電・省エネへの取組やライフスタイルの変革などが求められていることから、将来を担う子どもたちから大人まで、すべての市民が身近な環境から地球規模の環境問題まで関心を持ち、理解を深め、環境を大切にしている意識を高める必要がある。		市民や事業者などが利用しやすい環境情報の発信や、さまざまな環境啓発事業を通じて、市民の環境を大切にしている心の育成を図り、環境に配慮した行動を促進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民		地球環境の保全の大切さが理解される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
まちづくり評価アンケート調査「CO2の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合	%	↗	・環境部ホームページの閲覧者が9%(前年度比)増加した。	⇒	・環境部ホームページの情報をできるだけ速やかに更新するようにした。
当初値 (H25) 80.7					
H31目標値 83.0					
H36目標値 86.0					
<p>問題点</p> <p>・環境モニター事業の参加者が7名と少ない状況である。</p> <p>・まちづくり評価アンケートによる、地球環境にやさしい生活を常に心がけている市民の割合が減少している。</p>					
<p>問題の要因分析</p> <p>・環境モニター事業に使用する機器(省エネナビ)が老朽化し、使用できる台数が少ない。現在使用している省エネナビは、2016年に生産が中止され、また、太陽光発電システムを導入している場合は正確な測定が出来ず、事業対象者が制限されるなど、参加者を増やすことが難しい状況である。また、参加募集しても何とか定員に達している状況であり、参加者に対する謝金も生じることから、大きく参加者を増やすことは難しい。</p> <p>・「地球環境にやさしい生活」を心がける理由とその方法が周知しきれていない。</p>					
市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業への参加者数	人	↗	・環境学習講座の参加者が5%(前年度比)増加した。	⇒	・環境学習講座の開催回数を増やしたほか、内容の充実を図った。
当初値 (H25) 22,874			・エコライフ推進イベントの参加者が5%(前年度比)増加した。	⇒	・エコライフ推進イベントの内容の充実を図った。
H31目標値 23,000			・地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業への参加者数が目標値を上回っている。	⇒	
H36目標値 23,000					
<p>問題点</p> <p>・地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業への参加者数が頭打ちになっている。</p>					
<p>問題の要因分析</p> <p>・実施内容が例年同じものが多く、目新しさが無い。</p>					

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 環境部ホームページの内容の充実を図る。</p> <p>★ 環境モニター事業は、参加者への謝金を廃止し、現在保有している機器を無料貸出してモニター事業を継続するとともに、簡単に省エネの効果分かる「環境家計算」(紙ベース)を広く配布し、多くの方が参加しやすい事業の拡大を図る(名称を変更予定「CO2見える化事業」)。</p> <p>☆1 「地球環境にやさしい生活」の必要性が広く理解されるよう周知方法を検討する。</p>	
<p>★ 環境学習講座の開催回数を増やす(H29 20回 →H30 23回)。</p> <p>★ エコライフイベントの内容の充実を図る。</p> <p>★ 地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業の内容を、参加者が興味を持つようなものにするため検討していく。</p>	